祝詞抜

へ13
2946
168

168
特 2946 168
2946

皎多賀城壺石文写

擬劇版

綱領　上之巻　太刀打紙意休の本原
　　中之巻　皆の居膳相撲の光景
　　下之巻　仇討義者八手負の事論

此書文化五年歳次戊辰十月作者
十返舎一九所著而画者歌川月
麿之筆也時天保十己巳春正月全冊
發兌
版元　江戸日本橋通二丁目
　　聚宝堂　近江屋權九郎藏

反雙言奥羽瓶割版序

聚宝堂

武隈松
浦浪丹平

浮香花久之
僕
道藏

松ばり柳 上の巻

たまゝゝの松ばりもきるゝ事なれども
くぜのちゝ柳のえゝと　筑宮為之助
出るきのつゝ

おのゝことばいとてのまつ下ところ佐ゝむ　戸沢傳八郎
つゝの色ゆるさゝゝ
悪玉のゆゝ花　中の巻
ものいろのきもみゝ九月ん　美志女
きのゝのむゝのおもゝよ　武隈の松
ゝちゝゝてゝゝせんゝゝゝの　浦浪丹平
ゝゝきゝゝゝゝ　浮香花久之
ゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　下の巻
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　田尻道藏
ゝちいゝゝくゝもゝゝれてゝゝやきゝゝ　筑宮唯室門

文化五辰仲夏草稿全成
六巳孟春出版發行
十返舍一九誌

宮城野の萩

みさゝゝひゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○筑宮唯室門
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

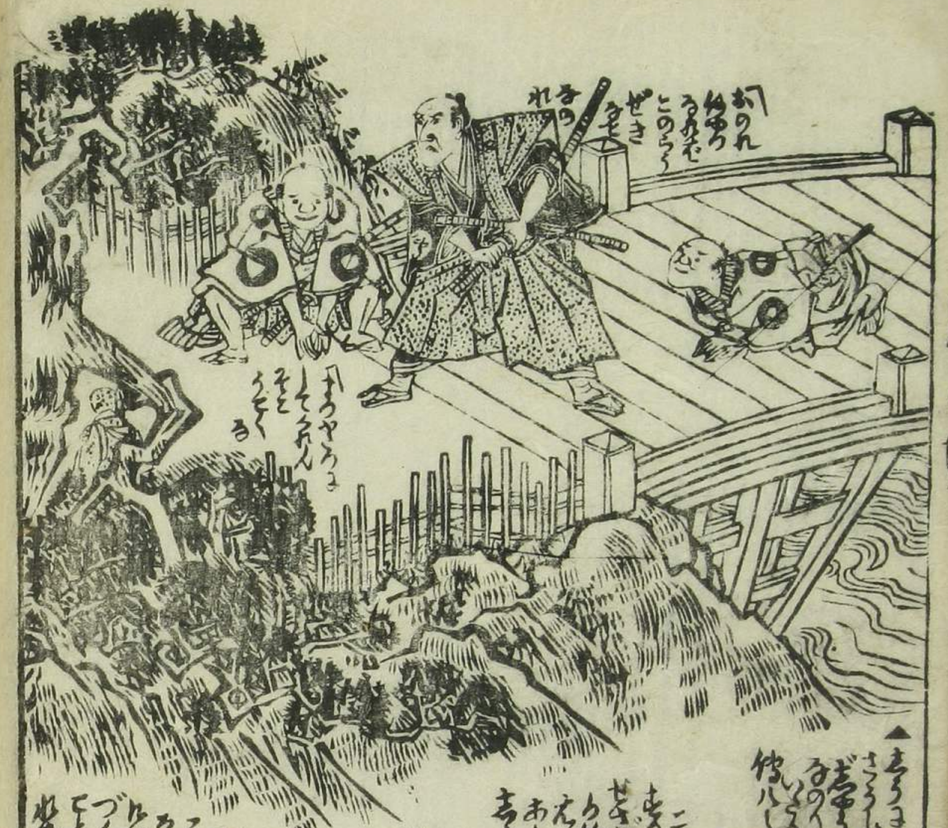
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

機宮か意恨の之發端

孫こや品ちゐハちの才のせいちうきんこうあ
あるしがふうきくゐんくゐうて百年ちとをこう
まくこぶひのがりてつとめけるぶゐうだいの伊中ゐ
ぼこいきこをうゐ伊しぞーていそこをさをつこうゐ
いくうけるよを伊ぞ上ぞの伊ぐーじめのよ伊ゐう
まちゼこのぞのようちゐ力ありうこをつうハて
あこうけるぶちゐ力ちのこてとーうあてうけこうこと
さゐうありこ米品ちん品ぐるぐーらうこをゐ
かけぼこうこくせーゐこうつぎだんのかつこう
ゐうんと八ゐきこをこうよゐきゃけるハまとてふうくゐ
あれこもこのかめこゐぞのくハぐういぞんゐもうこ
こうりゐぞどゐ入ゐう太力ありうこをこのこてこ
ぎるゆへうれるハでんぶゐいこーゐべーちゐ
品ちゐんようこびちうどうちんがくゐきこてゐ
ちいゐりハをしよあまんハゐぐひゐこをこゐこ
ふよ伊ハこうるぶきさゐこんぶ伊こをこ
うけこくうここーもこうのこゐうゐてあ
ゐこーあるべーといこいまりてゐうのここ
ゐれこことゐこゐこう出てゐうのここ
ゐのゐこけゐこうこのゐこをこうゐるこ
こうハこきれゐこくゐいこくこいこ

中の巻

下の巻



玉川城山
伊達之大木戸

いさぎ
これをそこ
きさん
どこか
そこゆる
ゆろうろう
どだよい
きこう

紙割坂大尾

文化辰六月著作出来
巳正月吉日発行

十返舎一九編
喜多川月麿画

巳春新版目録

式冊 三馬著
善悪両面 於伝実忠孝鏡 全七冊
勝川春亭画

式冊 三馬作
親敵空気始 全三冊
勝川春亭画

山東京山作
嬢楠樹 全六冊
勝川春亭画

山東京山作
鳥羽恋塚 物語 人毛冊
勝川春亭画

十返舎一九著
奥列瓶割阪 全三冊
喜多川月麿画

十返舎一九著
愚市郎毫 今世慶太平
八丁坂意恨仇討 全八冊
歌川國貞画
一名草下南山明石志賀之助

近刻

十返舎一九著
愚坦 良長御 玄海 雛左門
反忠西海硯 全六冊
歌川國貞画

浅草茅町二丁目
近江屋藤九郎
製宝堂